議会改革調査特別委員会の視察報告

福岡県嘉麻市　タブレット端末導入について

平成26年11月5日

嘉麻市は、福岡県のほぼ中央に位置し、平成18年３月に１市３町（山田市・碓井町・稲築町・嘉穂町）が合併して誕生。
人口は約４万1,000人。議員定数は22人。

本委員会（池田裕之委員長ほか４人）では、導入を検討しているタブレット端末について、先進地である嘉麻市議会の運用状況や活用範囲等を調査した。

同市議会は、本会議などで配布している議案や参考資料などをデータ化し配布することにより、ペーパーレス化と事務の効率化を図るため、平成26年９月定例会からタブレット67台を導入。タブレットは、議員、幹部職員、議会事務局などに貸与され、今年度中はペーパー資料とタブレットを並行運用し、平成27年度から本格的に運用を開始予定としている。

導入効果として、紙で資料を配布することがなくなるため、紙の量を減らすことや配布の手間（郵送代）が不要になることでコストダウンが見込まれることに加え、資料の更新、差し替えが瞬時に行えるなどメリットも大きい。また、議員同士の連絡、議会事務局や行政からの連絡が効率的に行えるなどの効果が期待できるとのことであった。

導入経費として、通信費やクラウド使用料が必要になるとのことであった。

▲担当者の説明を聞く委員

廃棄物処理施設建設に関する特別委員会の視察報告

長崎県西海市　汚泥再生処理センターについて

平成26年11月7日

西海市は、平成19年４月に５町（西彼町・西海町・大島町・崎戸町・大瀬戸町）が合併して誕生。
人口は約３万人。議員定数は20人。

本委員会（濱洲大心委員長ほか７人）では、本市が新たに建設を予定している汚泥再生処理施設と同規模の施設を有する西海市において、建設後の維持・管理コストや臭気対策等について調査した。

●施設概要

全体事業費	22億6,800万円
年間の維持管理コスト	6,350万円（平成25年度）
処理方式	水処理（高負荷脱窒素処理方式＋高度処理）で、高度処理した水は海へ放流。水の他に発生する汚泥物は脱水乾燥し資源化（助燃剤及び炭化物資源化）
面　　積	敷地面積：8,573㎡ 建築面積：1,579㎡ 延床面積：2,734㎡

臭気については、し尿等を搬入する受入室に前室を設け、さらに施設内を負圧して臭気が外にでないように対策が講じられていた。また、集中監視システムにて自動制御され、効率的な管理がなされた施設であった。延命化対策を計画的に行うことが今後の課題とのことであった。

天草市議会広報広聴委員会
〔前列左から〕
委員長　濱洲大心・副委員長　益田政昭
〔後列左から〕
委員 平山泰司・船辺　修・蓮池良正・
宮下幸一郎・中尾友二・柴田　誠

編集後記

6月議会で天草エアラインの次期航空機購入に向けての補助金が計上されましたが、急激な円安進行に伴い、12月議会でさらに増額補正されました。円安の影響が輸出業者への追い風にはなっても、石油類などの多くの輸入資材品の価格アップにつながっています。

天草市管内では、地域資源を活用した起業・創業が、各分野の連携で構築されることが、期待されます。まさに、地場の中小業者の出番でもあります。

また、買い物や外出時の移動支援、見守りなど、日常ふだんの何気ない地域的つながりが、市民生活をより安心できるものにしていくことをヒントに、地域経済を活発にしたいものです。

蓮池良正